

令和6年度 文教福祉常任委員会行政視察報告

◆ 参加委員	委員長	斎藤 徹
	副委員長	小林 均
	委員	安齋政保
	委員	三木 剛
	委員	武藤清志
	委員	佐藤 有
	委員	菅野 明



視察の様子（福岡市）

- ◆ 視 察 先 福岡県福岡市
- ◆ 視察内容 教育現場におけるＩＣＴの活用
- ◆ 視 察 日 令和7年1月28日（火曜日）

福岡市では、令和2年2月より「福岡つながるクラウド」という市独自の教育動画用プラットフォームの運用を開始し、これまでに配信された動画の本数は2,200本を超えております。これらの動画は児童生徒の学習用のみならず、教職員の指導方法の教材としても広く活用されており、コロナ禍においては、休校中の児童生徒の補充学習に大きな役割を果たしてまいりました。

また、中学校及び高等学校においては、「デジタル採点システム」と高機能複合機の導入により、教職員の採点業務の負担軽減が図られております。さらに、採点データの活用により、個に応じた指導法の検討や補充学習に活かされております。

加えて、同市では、児童生徒の学力や生活行動等のデータをＡＩで分析・可視化する新システムの構築が進められており、令和9年度からの運用を目指しております。これにより、教員の経験や感覚に頼るだけでなく、データに基づいた指導・助言が可能になり、教育の質の向上と均質化が図られる見込みであります。

このように、福岡市においては、児童生徒の成長や教職員の負担軽減を図るため、最新技術の導入により教育現場で積極的にＩＣＴが活用されていること

が分かりました。一方で、システム活用にかかる教職員向けの研修の実施や、I C Tの活用が進んでいない学校に対し、聞き取りやアドバイスを行うなど、サポート体制も充実している印象を受けました。

当市においても、デジタル採点システムの導入など、参考にできる部分は多いと感じましたが、I C T化を進めるうえで、教員や児童生徒のI C T格差解消の取り組みについても、同時に進めていく必要があると感じたところであります。

- ◆ 視 察 先 佐賀県武雄市
- ◆ 視察内容 ICTを活用した教育
- ◆ 視 察 日 令和7年1月29日（水曜日）

武雄市では、全国に先駆け、平成22年度より、一部の小学校にタブレット端末が導入され、平成26年度までに市内すべての児童生徒に1人1台の端末が整備されました。また、家庭でインターネット環境が整わない生徒には無償でポケットWi-Fiを貸し出すなど、早くからハード面での整備が進められておりました。

また、平成26年度からは、タブレット端末を使って家庭での動画による予習を進め、授業では生徒同士や教師と話し合い、協働して問題に取り組む、武雄式反転授業「スマイル学習」が実施され、全国的にも大きな話題を呼びました。当事業の特徴である「動画による予習」は、児童生徒の興味を引きやすく、家庭学習時間の増加と授業の理解度向上に大きな効果があったとのことでありました。

さらに、令和5年度からは、国のリーディングDXスクール事業の指定を受け、先進的なICT教育を内外に発信しております。そこでは、個人に合った方法やペースで学習できる「個別最適な学び」、学習の進捗状況や児童生徒の考え方等をリアルタイムで共有できる「協働的な学び」の実践に、タブレット端末が効果的に活用されております。

このように、比較的早くから教育現場にICTの導入が進んだ武雄市では、継続的な取り組みや国からの支援を通じて、効果的なICT活用方法を確立しつつあります。特に、ICTを積極的に取り入れつつ、児童生徒の主体性を重視した柔軟な形でのICT教育が進められている点は、当市においても参考にすべきであると感じたところであります。

- ◆ 視 察 先 長崎県佐世保市
- ◆ 視察内容 スマートスクールSASEBO構想
- ◆ 視 察 日 令和7年1月29日（水曜日）

佐世保市では、「子供たちが新しい時代を生き抜く力を身につける」という基本理念のもと、平成26年度に「スマートスクールSASEBO構想」が策定され、この構想を推進するため、複数の課のICT担当職員が兼任する形で「スマートスクールSASEBO推進室」が組織されました。

構想の実現に向けて、ハード面では1人1台のLTE通信端末の整備と、島しょ部や山間部における基地局の新設が進められました。これにより、すべての児童生徒が時間や場所の制約を受けずに学習機会を得られるようになり、オンラインでの大規模校と小規模校の合同学習や、複数の学校による連合生徒会の開催など、ICT活用の幅が大きく広がっております。

ソフト面では、長崎大学や民間企業との連携により、効果的なICT活用の研究や関連イベントへの参加等を通じて、ICT環境の底上げが図られたとのことであります。

これらの環境整備により、同市では教育現場におけるICTの活用が進み、文部科学省が実施した校務DX化に関する調査では、全国1,812自治体の中で59位になるなど、取り組みが着実に成果を上げているとのことであります。

さらに、県外や海外の学校とのオンライン交流会や、民間企業の社員を講師に招いた「ジュニアICTリーダー育成講座」の開催など、児童生徒の視野を広げ、国際社会で通用する力を身につけるための取り組みが行われています。

このように、佐世保市の「スマートスクールSASEBO構想」は、様々な施策が円滑かつスピード感をもって展開されている点が特徴的です。これは、本来縦割りの組織が、「推進室」があることにより、部署の垣根を越えて連携していることが大きな強みになっていると考えられます。

また、同市の取り組みから、ICTが地域間の教育格差解消に非常に有効な手段であることを実感しました。

当市においても、中山間地域や過疎地域が多く存在しており、大いに参考になるものと感じたところであります。